

---

# 別れ

朝昼夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

別れ

### 【ZPDF】

Z0217Z

### 【作者名】

朝昼夜

### 【あらすじ】

別れるお詫びががが。

前から思つてたんだ。俺は君のことが本当に好きなのだらうか疑問だなつて。

だけど君のことは君には勿論言わなかつたし、これまでも「れからも言つてしまつたりなかつたけど。

でも今、言つてるわけじやん（笑）なんで「ひこひこ」とになつたかつてのは、まあ、いろいろ理由があつたぞ。

あのや、楽しいお話をしようが。

例えば、そうだな。…なんか、楽しい話とかある？ はは、『めん。俺は特にネタ無いんだ。最近面白っこいことに出合つてないし。面白っこともやつてないし。』めん。

あ、うん。ああ、飼つてる犬のこと？ ああ、うん。あれは元気だよ。今は暑いから舌を出してへばつてもいるけどね。最近しわが増えた。よぼよぼになってきてるかな。年齢だね、あいつも。

楽しい話、か。そりだ、あいつはびひじてるのかな今頃。生きているのかな。元気かな。

笑つてるのかな。泣いてんのかな。感情が激しい奴だったな。会いたいな。

でもやつぱり俺はお前と話してるのが一番楽しいよ、なにより。今までどんな話をしてきたんだつけ。もう覚えてないなあ。なんかずつと昔のような気がするんだよ、最近。なんか、や。

これ、見て欲しいんだ。

ほら昔一人で買ったガラス細工。お祭りの時。覚えてる？ そつか、覚えてるか。そりや そうだよね。楽しかったよね、あの時のことは。ね、楽しいよね。だからさ、もつと楽しい話をしよう。いろんな。一人が微笑んでいられるような。例えばさ君の飼つてる猫の話をしようよ。楽しいよなあ、あいつも。陽気だよねあの猫。可愛いし。最近、どう？ あ、そっか。やっぱりそりゃ、年齢はどるよね。でも、陽気か。そりやいいよね。ずっと陽気で居て欲しいよね。欲張りなことかもしれないけどさ。

ね、ね、ねね。もっと楽しい話なんかないの？ そつだなあ、俺も楽しい話を今必死に思い浮かべようとしてるんだけどれ…。ん、何でそんなに楽しい話がしたいのかって？

そういうえばさ、車の話でも楽しい話があつたよね。そういうあいつの車。いまだに故障中だぜ（笑）高かつたのにな、あれ。でも悪いのはあいつだよな。はしゃぎすぎたんだよ。学生氣分が抜けきつてなかつたのが悪い（笑）ははは、楽しいなあ。楽しい…。

なあ、ほんと、楽しかつたよい今まで。なんかごめんな。無理矢理楽しい話ばつかさせちゃつて。最後なのにさ。でも、俺、今朝起きたときにさ、声が聞こえたんだ。大切な人が消えてしまつ前には、楽しい話だけしなさいって。言われたんだ。声が聞こえてさ。うん、

いや、本当は占いでそんな感じのことが出てたから。ラシキーアイ  
チームがガラスだったの。だからガラス細工のこととか思い出して。  
でも、もう楽しい話、思いつかないや、ははは……「じめん、『じめ  
んな。

もひと俺が話上手なやつで、一回くわちゅべつても相手を飽  
きさせないような天才だったら、お前と別れなくて済むのにな。で  
も、『じめん。もう思いつかねえや。楽しかった。楽しかったよ、ほ  
んとに、楽しかった。お前といれてよかつた。

手、離すよ。

「こんなことになるとは思わなかつた。

だけど、仕方がないのかな。こうこうのを、仕方がないつてこう  
のかな。

「じめんな。ほんと、『じめん。

お前のことひきとめられなくて本当に『じめん。

俺もいつか、そつちにいくよ。

俺は君のことが本当に好きだつたよ。これからも好きでこられる  
ように、お前のこと、忘れないよ。

ぜつたいに忘れない。

出会ったのは何時だっけ。どうかで出会ったんだよね。そりゃそ

私は何時の間にか浮き上がりつて、体が何だかおかしなことになつてグロテスクで見てられなくて、辛い。あんなにグロテスクな私は今まで初めて。辛い。そんな私にあの人ははずつと、なぜかいろいろくつちやべつてる。もう私は宙に浮かんでて、体には入つてないのにね。おかしな話。

うか、何言つてんだろ私。だけど、なんだか頭がぼんやりしちゃって全部思い出せないんだよなあ。なんか、思い出せなくてもいつか、つて思い始めちゃってる。ねえ、私、これでいいのかなあ。多分、ダメだよね。

何で君はそんな泣きながら面白い話ばっかりしてるの。無理しないほうがいいよ（笑）無理して笑つても疲れちゃうだけじゃない。悲しい時には悲しい顔してよ。私だつて今悲しいんだから、悲しいお話をしてもよ。そんな無理しないでよ。あなた話をするの苦手じゃない。それなのこ。

あ、でもそのガラス細工は覚えてるよ。懐かしいな。あのときどうじう流れで買つことになつたのかあんまり思い出せないなあ。ごめん。だけど、だけど私それ大好きなの。今だつて大好き。でも、なんでだろうなあ。なんか、悲しい。それ、見ていたくない。どつかに投げ捨ててしまいたいんだけど。なんでだろ、やっぱひねくれてるから駄目なのかな。ごめん。

ごめん、私はいくよ。先に行くよ。  
ずっと待つてる。できるだけ長いこと、待つてる。  
あなたにまた会いたいもん。  
さようなら。

絶対、待ってる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0217n/>

---

別れ

2011年1月13日02時41分発行